

そば(信濃1号)の栽培ごよみ

月	旬	生育状況	作 業 及 び 防 除
8	上	排水溝 耕起 施肥 整地 うね立て 播種	・ほ場周辺と内部に排水溝を作る。 ・耕起深さは15cm程度、通常ロータリで行うが碎土はできるだけ丁寧に行う。 ・播種前に施肥（苦土石灰のみ）、整地を行う。 ・苦土石灰40～60kg/10aを散布し土壌を弱アルカリへ誘導する。 ・うね幅1.5～2m（排水の悪いほ場は狭くする）
	中	出芽期	・晴れの続く日を選んで播種を行う。 ・充実した種子を選択し、播種は条播き・ばら播きで行う。播種後は必ず覆土をする。
	下	着蕾期	・排水溝の整備
9	上	開花始期	・播種後20～25日位で開花し始める。 ・ハスモンヨトウ発生初期の防除（播種後25～30日） ロムダンフロアブル2,000倍液を散布
	中	開花盛期	・追肥は行わない。（倒伏の恐れがある。）
	下	開花終期	
10	上	成熟期	・播種後60～70日。
	中	収穫期 乾燥・脱穀	・収穫は子実全体の70～80%程度が黒色になった頃行う。 ・乾燥は水分14～15%、乾燥温度上限30℃まで。 ・脱穀後は静置式乾燥機で乾燥する。
	下		・唐箕選で精選する。

栽培のポイント

1. 雑草防除：播種前に除草剤散布

除草剤名	対象雑草	10a当り散布量	使用可能時期	総使用回数
ラウンドアップ マックスロード	一年生及び 多年生雑草	200～500ml／水100ℓ	耕起前又は播種前 (雑草生育期)	2回以内

2. 排水対策 (重要)

・湿害に非常に弱く、ほ場の乾燥が悪いと発芽不良や不揃いになりやすい。その為融雪直後に額縁排水を掘り、乾燥させる。

3. 播種

- ・ 晴れの続く日を選んで播種を行う。
- ・ 播種作業は条播き・ばら播きどちらでも可。土寄や薬剤散布を行う場合は条播きとする。
- ・ 播種量は、作付時期により若干異なるが、秋そばの場合10a 当り 4～5kgが基準。

4. 收穫

・機械での刈取は晴天日に露が落ちてから行う。また刈取前に霜にあたると脱粒するので適期に刈取る。

5. 乾燥・脱穀

- ・地干しや静置型乾燥機で乾燥する。高温熱風による急激な乾燥は品質低下を招くため30℃以下で行う。

飼料作物の栽培ごよみ

草種		品種・系統 (奨励・認定)	利用	播種適期 (目安)	播種方法 (注意事項)	10a当り 播種量		10a当り施肥量		収穫時期 及び注意点				
								基肥	追肥					
イタリア アンライ グラス	早生種	☆タチワセ(奨励) ☆ワセアオバ(奨励) ☆タチマサリ(認定) クワトロTK5(認定)	乾草・サイ レージ	10月上旬 (日平均気温 が15～20℃ の頃)	耕起、平畦、散播 (融雪水による湿害 を回避するため溝 切りなどの排水対 策を行う。)	無印	3 kg	堆肥 3t～4t 石灰 100kg	(消雪直後から) 3月中下旬	窒素 5 kg ・ 加里 3 kg	1番草 [早生] 4月下旬 ～5月中旬 [中生] 5月上旬 [晩生] 5月中下旬 5月上旬			
	☆印	2 kg				窒素 6 kg								
	晩生種	エース(奨励) ムサシ(認定) アキアオバ3(奨励) ゆきつよし(認定) ダイヤモンド(認定)				播種遅れ の場合	上記の 3割増	燐酸 10kg 加里 6kg		1番草刈取後		窒素 5 kg ・ 加里 3 kg	2番草 6月中下旬 ※出穂期以降は 栄養価が低下す るので、出穂後 直ちに収穫する のが望ましい。	
スーダン グラス・ソ ルガム	早生種	[スーダングラス] ヘイスーダン(奨励) サマーベラー細莖(奨励) スーダンパイパー(奨励) [ソルガム] 高消化ソルゴー(奨励) シュガーグレイズ(奨励)	青刈り・乾 草・サイレー ジ	5月下旬 (月平均気温 が17℃の頃)	耕起、平畦、散播 (発芽揃いを良くす るため耕起後丁寧 に碎土整地し、播種 後は十分に覆土鎮 圧する。)	青刈り場 合利用	2～3 kg	堆肥 3t～4t 石灰 100kg 窒素 10kg 燐酸 10kg 加里 10kg	1番草刈取後	窒素 5 kg ・ 加里 3 kg	1番草 8月上旬 2番草 9月下旬 青刈り、乾草利用 は穂ばらみ～出 穂期で収穫し、ロ ールベール利用 は草丈150cm～穂 ばらみ期に収穫 する。 出穂前では硝酸 態窒素の含有量 が多い場合があ るので給与時 には他の飼料と組 み合わせる。			
					乾草ロー ール利用 の場合	6～8 kg								
トウモ ロコシ	早生種	ゴールドントKD641(奨励) ロイヤルデントTX1334(奨励)	サイレー ジ	5月上旬 (日平均気温 が10℃の頃) ※平均気温が 10℃以上あれ ば、播種時期を 早めてもよい	耕起、平畦、点播(1株1粒)、播種深度2 ～3cm(遅播きは生育期間が短いため収 量が低下する。また、密播きは倒伏しや すくなり、栄養成分が低下する。一方、薄 播きは雑草の発生量が増加し低収とな る。播種方法、播種粒数により収量等が 大きく左右するので、下記の基準を遵守 する。)	堆肥 3t～4t 石灰 100kg 窒素 10kg 燐酸 10kg 加里 10kg		/		黄熟期 (播種後110 ～119日)				
	中生種	ゆめそだち(認定) ゴールドントKD731(奨励) スノーデントSH4821(奨励)									播種粒数、畦幅別の株間早見表			
											播種量(10a当り)			
						粒数	kg(注2)				65	70	75	80
						早生種(注1)	8,500				2～4	19	18	17
		中生種				8,000	1.8～3.5				18	17	16	15

注1:早生種では、Sサイズの利用は避ける。 注2:種子サイズによって調整する。

トウモロコシの雑草防除

土壌処理					
除草剤名	対象雑草	使用時期	10a当り散布量	本剤使用回数	注意事項
ゲザンゴールド	1年生雑草	播種後発芽前(雑草発生前)	140～260ml/水70～100ℓ	1回	砂土では薬害の恐れがあるので使用しない
		生育期(とうもろこし2～4葉期)			
エコトップP乳剤	1年生雑草	播種後発芽前(雑草発生前)	400～600ml/水100ℓ	1回	散布後の多量の降雨で薬害の恐れがある

除草剤名	対象雑草	使用時期	10a当り散布量	本剤使用回数	注意事項
ゲザリムフロアブル	1年生雑草	播種後～とうもろこし 2～4葉期まで	100～200ml/水50～100ℓ	1回	砂土、水はけのよい土壌では葉害の恐れがある
ワンホープ乳剤	1年生雑草 多年生イネ科雑草	とうもろこし3～5葉期 (但し、収穫30日前まで)	100～150ml/水70～100ℓ	1回	品種によって感受性を示す場合がある
アルファード液剤	1年生雑草	とうもろこし3～7葉期 (但し、収穫45日前まで)	100～150ml/水100～150ℓ	1回	散布時の展開葉に葉害(黄斑)を生じる場合があるが、生育・収量に影響しない

転作田では、ほ場の排水の良否が飼料作物の収量を支配するので、排水を良くし湿害を回避することが重要。病害虫の早期発見と適期防除を徹底し、適期に収穫を行い、高品質な飼料の確保に努める。